

和文表題 フォント：ゴシック体， サイズ： 12 ポイント

(和文副題 12 ポイント， 両端を括弧で囲む)

English Main Title Font: Times (New) Roman, Size 10pt
(English Sub-Title Font: Times (New) Roman, Size: 10pt)

(申込時の表題から変更しないで下さい)

和文氏名 (所属) フォント： 明朝体， サイズ： 10 pt 例： 混相 一郎 (〇〇大院)

英文氏名 Font: Times (New) Roman, Size: 9 pt, Example: Ichiro KONSOU

Corresponding author: email@email (8pt, 責任著者のメールアドレス) (←記載は任意. 記載しない場合は全文を削除する.)

Abstract It must be written with 10 pt Times (New) Roman Font. The line spacing is 10.5 pt. The number of words is limited within 200.**Keywords:** Font: Times (New) Roman, Size: 10 pt, About 5 words

1. 各章のタイトルはフォントサイズ 9 pt のゴシック体

本資料は、オフセット原稿を作成する方法を、視覚的にわかりやすく示したものです。

2. 本文執筆の要点

2.1 用紙サイズ，余白，段組み

原稿用紙には A4 版用紙を用い，余白は次のようにする。

上余白： 17 mm， 下余白： 20 mm
左余白： 18 mm， 右余白： 18 mm

本文の段組は，次のような 2 段組とする。

段間隔： 8 mm， 段幅： 83 mm

2.2 フォントと改行幅

標準フォントは，9 pt の，

和文： 明朝体

英文： Times (New) Roman, Times, Symbol

を用い，太文字には 9 pt の，

和文： ゴシック体

英文： Arial, Helvetica

を使用する。上記のフォントがない場合には，これに準ずるフォントを用いる。

改行幅は 12.25 pt とする。この設定により，1 段あたりの文字数は，26 文字×60 行=1560 文字となる。

2.3 式と記号

式と記号の標準文字は 9 pt の斜体 (イタリック体) とする。ベクトルの場合は太字の斜体 (イタリック体) あるいは - をつけた斜体 (イタリック体) とする。添字の上付き文字と下付き文字は 6 pt 程度のフォントサイズとする。以下に例を示す。

$$J_G \quad \mathbf{V}_L \quad a_{ijk}^n$$

式の上下には空白行を設け，式の右端に式番号を記入する。例えば，

$$F_D = C_D \frac{1}{2} \rho |v| v S \quad (1)$$

のように記述する。式を文章中で参照するときは，式(1)，式(2)-(5)のように式番号の前に“式”をつける。

2.4 図，表，写真とその説明

図，表，写真は 1 段落，あるいは 2 段幅に収まるように作成し，文章の適当な位置に配置する。図中のフォントサイズは十分認識できる 9 pt 程度とする。6 pt 未満の文字は使用しない。

図，表，写真の前後に 1 行の空白行を設ける。

図，表，写真の説明は，太字の図，表，写真の番号の後に，標準文字 (9 pt) の英語で説明を記述する。以下にその例を示す。



Fig. 1 Schematic of experimental apparatus.

Table 2 Properties of test fluids.

Photo 3 Flow pattern around sphere.

文章中で図，表などを参照するときは，太字で Fig. 1, Table 2, Photo 3 等と記述する。

原稿は PDF ファイルとして配布するため，カラーの図表も受け付ける (次頁の「講演論文集について」参照)。

2.5 記号の説明

記号を多数用いる場合には，緒言 (結論) および謝辞等の後に，Nomenclature (本文中で使用した主な記号の説明) を英語で記述する。フォントサイズは 9 pt 程度とする。記入方法については本資料の Nomenclature の例を参照する。

2.6 参考文献

参考文献もフォントサイズ 9 pt で記入する。記入方法については本資料の文献記入例 ([1], [2]は単行本, [3], [4]は雑誌論文, [5], [6]は講演論文, [7]はウェブサイトの例) に従う。

本文中で文献を引用する時には、[2], [2]-[4]等、標準サイズの文字で参照する。

Nomenclature

C_D	: drag coefficient	[-]
dP/dz	: pressure gradient	[Pa/m]
Re	: Reynolds number	[-]
V_T	: terminal velocity	[m/s]

Greek letters

μ	: viscosity	[Pa·s]
ρ	: density	[kg/m ³]

Subscripts

G	: gas phase
L	: liquid phase

参考文献

- [1] Wallis, G. B., One Dimensional Two-Phase Flow, McGraw Hill, New York (1969).
- [2] 日本機械学会編, 気液二相流技術ハンドブック, コロナ社 (1989).
- [3] Zuber, N. and Findlay, J. A., J. Heat Transfer, Vol. 87, 453–468 (1965).
- [4] 高木周, 松本洋一郎, 混相流, Vol. 10, 264–273 (1996).
- [5] Ohira, H. et al., Proc. 6th Int. Conf. Multiphase Flow (ICMF2007), CD-ROM, Paper No. S1_Mon_C_8 (2007).
- [6] 田中博人ほか, 日本混相流学会年会講演会 2003 講演論文集, pp. 219–220 (2003).
- [7] <http://wwwr.hamamatsu-it.ac.jp/jsmf2010/> (ただし website は永年のでないため引用は勧められない)

原稿の長さ :

2 枚とします。超過は認めませんのでご了承ください。ページ番号は付けないでください。原稿の様式が本フォーマットと著しく異なる場合は、修正を依頼します。なおオーガナイズドセッション講演者はアブストラクトのみの講演論

文も可とします。

提出物と提出先 (重要) :

原稿の PDF 電子ファイル (4Mbyte 未満) を混相流シンポジウム 2024 のホームページからお送り下さい。

混相流シンポジウム 2024 論文精選集への投稿 :

特集号の出版を予定しています。この混相流シンポジウム 2024 で一般講演発表を審査し、優れた講演を特集号の候補論文として推薦いたします。推薦論文の審査に当たっては、著者の掲載希望 (講演申し込み時に「一般講演の論文特集への掲載審査」で「希望する」を選択) を勘案いたします。なお、論文の査読過程は通常の混相流学会誌論文と同一です。

講演論文集について :

講演論文集は、印刷体としてではなくダウンロード形式での配布となっております。これに伴い、カラーの図表も問題なくお使いいただけるようになりました。

講演原稿提出期限 :

2024 年 6 月 17 日 (月) 厳守

その他のお問い合わせ :

実行委員会事務局 :

委員長 瀬田剛 (富山大学)
幹事 鈴木康祐 (信州大学)

E-mail: mfsymp2024[at]jsmf.gr.jp

までお問い合わせ下さい。